

2014 年度 入学試験問題

世界史 B

(試験時間 13:25~14:25 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙のみです。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。

日支事案

I 以下の文章中の空欄A～Gに適切な語句を記入し，設問に答えなさい。(30点)

大航海時代末期の1588年に，女王（ A ）の指令を受けて，ドレークが率いるイングランドの艦隊がスペイン無敵艦隊を撃破したことは，イングランド台頭のきっかけとはなったが，本格的な海外進出と勢力拡張にはまだほど遠い状況であった。

（ B ）革命の最中の1649年8月に，クロムウェルを司令官とするイングランドの議会派の軍隊はアイルランドのダブリンに上陸し，翌年5月まで，反乱鎮圧を名目に各地で多くの住民を虐殺した。1652年8月のアイルランド土地処分法，1653年9月の償還法によって，アイルランドでの反乱に参加した者やカトリック地主の土地が大量に没収され，それらの土地は，反乱鎮圧に資金を提供したロンドン商人や，プロテスタント地主の手に渡り，アイルランドの事実上の植民地化が進んだ。^①

また，1655年の同じくクロムウェルによる西インド諸島の（ C ）への艦隊派遣と占領は，イングランド国家が大西洋を越えて軍事力を行使した最初の事例である。

1660年の王政復古以降，大西洋世界への進出は本格化し，バルバドス島をはじめとするカリブ海の植民地には，イングランドからの移民が入植し，砂糖プランテーション農園が開発された。

さらに，1672年に設立された王立アフリカ会社は，西インド諸島における労働力（黒人奴隷）を確保するために，西アフリカ沿岸地域で奴隷貿易に従事し，のちの18世紀に本格的に形成される大西洋をまたぐ植民地間貿易網，「大西洋三角貿易」の原型が作られた。^②

18世紀のイギリス帝国形成の原動力になったのが，1660年の王政復古からアメリカ独立戦争にいたる約1世紀間に起こったイギリスの貿易構造の大きな変化であり，この変化はイギリス商業革命とも呼ばれる。その特徴として次の3点が指摘できる。

第一に，イギリスの海外貿易額の大幅な増大が見られた。総輸出入額は，18世紀初めの642万ポンドから1770年代初頭には約2.5倍の1567万ポンドに増大し，総輸入額も585万ポンドから1273万ポンドにほぼ倍増した。

第二に，貿易相手地域も変化した。伝統的な貿易相手地域であったヨーロッパ大陸に代わって，非ヨーロッパ世界の比重が急激に上昇し，1770年代になると，南北ア

アメリカ大陸とアジア地域が、貿易額の過半を占めるにいたった。

第三に、貿易商品の構成が根本的に変化した。まず輸出面では、従来のイギリスの主力輸出品であった毛織物に代わり、毛織物以外の絹・綿などの織物、ガラス、皮革、石炭、紙、ロウソク、金属製品など、日常生活に必要な雑多な工業製品の輸出が増加し、1770年代には総輸出額の4分の1強、国内産品輸出の半額を占めて、主に非ヨーロッパ世界に輸出された。この過程で、毛織物工業以外の多様な雑工業生産の基盤が形成された。また輸入面では、新大陸からの砂糖、タバコ、コーヒー、アジア方面からの綿織物、絹織物の輸入が激増し、同時にこれら舶来物産のイギリスからの再輸出が急増した。

この18世紀における海外貿易の拡大、イギリス商業革命は、植民地物産の輸出入をイギリス（イングランド）の船舶に限定し、その独占をはかった1650年代以降の（D）法と植民地帝国によって支えられていた。

イギリスは名誉革命以降、1763年までのほぼ100年間にわたって、断続的にフランスと植民地・海外市場の争奪戦を展開していたが、スペイン継承戦争に付随したアン女王戦争の帰結としての（E）条約で、スペインからはジブラルタルと奴隷の独占的供給権を、フランスからは北米のハドソン湾と（F）島を獲得した。

七年戦争に伴うフレンチ=インディアン戦争では、優位に戦局を展開し、仏領のカリブ海植民地やセネガル、スペイン領フロリダを占領、1763年のパリ条約で、フランスからカナダとミシシッピ河以東のルイジアナを獲得し、北米大陸からフランス勢力を駆逐した。さらに1757年（G）の戦いで勝利を収め、のちのインド植民地支配の基盤を築くことにもなった。

18世紀後半のイギリスは、産業革命によって世界で初めて農業社会から工業社会へと変化した、^③ 社会の構造や人々の生活が大きく変化したと言われる。

イギリスで産出しない綿花を原料として、18世紀後半に相次いだ技術革新によっ^④て綿業部門を中心に展開したのが産業革命であった。それは、東インド会社がインドから大量に輸入していたキャラコやモスリンなどの綿織物を、イギリスでの生産に切り換えて、逆に環大西洋諸地域やアジア諸国に輸出しようとする輸入代替工業化の試みでもあった。

ただし、東インド産の綿織物にとって、イギリス本国やヨーロッパ大陸と並んで重要であったのが、西アフリカ地域への再輸出である。18世紀の（ D ）法体制の下で、植民地相互間の直接取引は禁じられていたために、東インドから西アフリカ地域へのモノの輸出は、いったん本国のロンドン港を経由する再輸出の形をとらざるを得なかった。東インド産綿布は、西アフリカにおいてアフリカ人奴隷と交換された。1699～1808年のイギリス貿易統計を分析したM・ジョンソンの研究によれば、対西アフリカ貿易で東インド産綿布は輸出品の首位を占め、18世紀半ばには、その比率は全輸出額の約30%（約910万ポンド）にのぼった。

こうして、東インド産綿布に代表されたアジア物産は、大西洋三角貿易、特に奴隷貿易において、アフリカ人奴隷を獲得・購入するうえで決定的に重要な再輸出商品となったのである。

イギリス産業革命にとって大西洋商業の拡張が決定的な役割を担ったことは間違いないが、さらにアフリカ人労働力の存在が環大西洋経済圏の形成に大きく貢献し、また大西洋貿易と東インド貿易とを結び付ける視角も不可欠なのである。

問1 下線部①について、1828年から1829年に行われた、アイルランド人の権利改善に貢献した法制度上の出来事を2つあげなさい。

問2 下線部②について、この奴隷貿易で繁栄したイギリスの港で、後にマンチェスターの外港となったものをあげなさい。

問3 下線部③について、産業革命に並行した農業革命について80字以内で述べなさい。ただし、以下の語句を必ず1回は使い、その語句の部分に下線を付しなさい。

農業資本家 工業労働者 地主 共同地

問4 下線部④について、以下の説明の中で間違っているものを選びなさい。

- a. 工場制手工業以前は、手工業者らに原料や道具を貸し、商品を買取る問屋制家内工業が行われていた。
- b. ワットは调速機の原理を利用して、蒸気機関を改良した。
- c. イギリス人発明家ホイットニーは、綿繰り機を発明して、綿織物業の綿花需要増加に対応した。
- d. カートライトの力織機によって、織布業の生産性が大幅に改善された。
- e. 産業革命後、インドはイギリス綿製品の輸入国に転落した。

II 以下の文章中の空欄A～Hに適切な語句を記入し、設問に答えなさい。(20点)

石炭は、古代の植物が長い期間地熱や地圧を受けて変質したことにより生成した植物化石と言われるが、特に産業革命以後 20 世紀初頭まで最重要の燃料として、また化学工業の原料として重視されてきた。しかし、艦船や自動車の燃料として石油が利用されるようになり、また戦後中東で大量の石油が安価に採掘されるようになると、産業分野でも石油への転換が進み、採掘条件の悪い先進工業国の炭鉱は廃れていくことになる。

イギリスのヒュー=プラットが、17 世紀に石炭から (A) をつくったが、1709 年にはダービー父子が、大規模な (A) 炉をつくり、石炭が製鉄の燃料として使われるようになった。

またイギリスの (B) は 18 世紀初めに蒸気機関をつくり、鉱山の水くみ用のポンプとして、広く使われた。ジェームス=ワットは、この蒸気機関を改良し、産業分野での利用が広まった。1787 年にはアメリカのジョン=フィッチが蒸気船をつくり、(C) によって外輪式蒸気船として改良され広められた。また、(D) によって 1814 年に蒸気機関車が製作され、イギリスのマンチェスターと海港をつないで、世界初の蒸気機関車を用いた鉄道が開通した。こうして 19 世紀には交通・運輸の一大革命が起こり、世界各地の交流に貢献した。

さらに、19 世紀末になるとコールタールを原料として石炭化学工業が始まり、インディゴ・アスピリン・ナフタリンなどが作られるようになる。^①

機械掘りの油井の出現は、石油生産の一大画期をなした。エドウィン=ドレーク(ドレーク大佐)が 1859 年 8 月にペンシルベニア州タイタスビルの近くのオイルクreek で採掘を始めたのが世界初と言われる。

1863 年、ロックフェラーがオハイオ州クリーブランドで石油精製業に乗り出し、1870 年、(E) を設立した。当時の石油はもっぱら明かりをとるための灯油の原料として利用されていたが、ジョゼフ=スワンが発明した白熱電球を 1879 年に (F) が実用化したことで (E) が経営危機に陥ったわけではない。

ロックフェラーは石油から灯油を採った後に残るガソリンを、危険な産業廃棄物として廃棄していたが、やがてこれを内燃機関の燃料として再利用することを考えるようになった。1876年にドイツのニコラウス=オットーが4ストロークで動作する内燃機関を発明し、(G) はそれを改良し、1885年以降にガソリン自動車を製作した。

(E) は、事業統合を重ね、1884年には、アメリカ合衆国全体の石油精製能力・石油販売シェアは約80%に達した。あまりに巨大化した(E) に対し、世論の反発が起き、1890年に成立した(H) により、同社は34の会社に解体された。^②

問1 下線部①について、19世紀に活躍しドイツの有機化学の基礎を築き、農芸化学の祖とも呼ばれているのはだれか。

問2 下線部②について、Eの解体会社などがもとになり、第二次世界大戦後、1970年頃まで国際石油市場で強い影響力をもった旧国際石油資本(セブンシスターズ)のうち、アメリカ資本系でないものを一つあげなさい。

III 以下の文章を読み、空欄A～Kに最も適切な語句を入れ、設問に答えなさい。

(40点)

中国江蘇省の省都南京は、豊かな長江下流域に位置し、交通の便に恵まれ、歴史上、江南地域を基盤とする諸王朝、諸政権の首都となった。229年には、三国の呉がここに都を定めて（A）と称し、280年に晋に滅ぼされるまで続いた。ついで、晋が内紛と周辺民族の侵入によって滅びると、317年に（B）によってここを首都として晋が復興された（東晋）。その後6世紀に至るまで、この町を都に宋、齊、梁、陳の王朝（南朝）が交替した。呉、東晋から陳に至る六朝時代、華北は相継ぐ戦乱と周辺民族の侵入で荒廃したが、江南地域では開発が進み、貴族社会が展開し、文化も栄えた。^①

589年には隋が陳を滅ぼして中国を統一、^②ついで618年には唐が隋を滅ぼし、大帝國を建設した。隋・唐時代、南京は、大運河の完成により交通の要衝となった揚州に繁栄を奪われて衰退し、多くの仏寺や遺跡にかつての栄華の跡を残す古都となった。

1368年、（C）は明朝を建て、金陵（南京）を首都に定めた。明は第3代永楽帝の時に北京に遷都したが、南京は明清時代を通じて豊かな江南地域の中心として栄えた。^③

近代には、南京はしばしば大きな政治的激動の舞台となった。1842年8月29日、（D）戦争の結果、長江に停泊する英艦コーンウォリス号において英・清間で南京条約が結ばれ、広州、上海など長江以南の5港開港、（E）の割譲、賠償金支払いなどが定められた。やがて太平天国が起きると、1853年に南京を占領してその首都（F）となったが、清朝は曾国藩等の漢人官僚の組織した義勇軍の力により、さらにイギリス人ゴードン、アメリカ人ウォードらの組織した常勝軍の援助も得て、^④1864年南京を回復し、ようやく太平天国を鎮圧した。その後、曾国藩、李鴻章等漢人官僚のイニシアティブにより、清朝は近代西洋の軍事、産業技術を導入して体制の立て直しを図ろうという（G）運動を展開した。1865年には南京に新式兵器工場の金陵機器局が設立されている。

辛亥革命後の1912年1月1日には南京で中華民国が成立し、孫文が最初の臨時大統領に就任したが、まもなく孫文は辞し、清朝の軍事・政治実力者であった（H）

が臨時大総統に任じると、政治の中心は北京に復した。1927年4月には、国民革命軍総司令の（ I ）により南京に国民政府が樹立され、翌1928年6月の北京攻略により、南京は首都としての地位を固め、近代都市として整備されていった。南京国民政府は関税自主権の回復や産業・交通の近代化など近代国家建設に努めたが、中国共産党との内戦^⑤と日本の軍事行動拡大のため、その統治は終始不安定であった。

1937年7月、（ J ）事件を契機に日中戦争が勃発すると、首都南京は日本軍の攻略目標となり、多大な被害を受けたが、国民政府は首都陥落後も奥地に本拠を移して抵抗を続けた。日本は（ I ）のライバルである（ K ）を引き出して、1940年、南京に対日協力政権を作らせたが、効果はなかった。

1945年9月、在中国日本軍は南京で降伏文書に調印し、8年にわたる日中戦争は終わった。1946年5月、国民政府は南京に首都を戻し、戦後の復興と憲政の実現を課題とした。だが、まもなく国共内戦が勃発し、1949年4月には中国共産党軍が長江を渡河して南京を占領し、国民党政権は敗れて台湾に逃れた。

問1 下線部①に関し、六朝時代の詩人の名前を以下のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア. 王維
- イ. 蘇東坡（蘇軾）
- ウ. 陶淵明（陶潜）
- エ. 班固
- オ. 李白

問2 下線部②に関し、以下ア～オの文章のうち隋王朝についての記述として正しくないものを記号で答えなさい。

- ア. 楊堅は北周の外戚だったが、禪譲の形で皇帝位を奪い、隋朝を開いた。
- イ. 隋が都を置いた大興城は今日の西安にあたる。
- ウ. 隋は均田制と府兵制を用い、強力な軍事力を誇った。
- エ. 隋は北は突厥、東は高麗への遠征を行ったが、いずれも平定できなかった。
- オ. 隋は九品中正法にかわって、学科試験による官吏登用をはじめた。

問 3 下線部③に関し，明清時代の江南地域の社会・経済について 140 字以内で記しなさい。ただし，以下の語句を必ず 1 回は用い，その語句の部分に下線を付しなさい。

稲作 湖広 農村家内工業 佃戸 郷紳

問 4 下線部④に関し，ゴードンはその後スーダンに渡り総督等を歴任，反英・反エジプト勢力の蜂起のため 1885 年にハルトゥームで戦死した。蜂起したこの勢力の名称を記しなさい。

問 5 下線部⑤に関し，1931 年に中国共産党が樹立した政府の名称を記しなさい。

IV 以下の文章を読み、空欄A～Eに最も適切な語句を入れなさい。(10点)

フィリピンは台湾の南、ボルネオ島・スラウェシ島の北の太平洋西端部に位置する7000余りの島々からなる。13世紀頃から北部では中国やチャンパーとも往来があり、14世紀頃からスールーやミンダナオ沿岸部にイスラーム教が伝わり、スルタン国が成立した。

1521年、(A)が率いるスペインの艦隊は西回り世界一周航海の途次、フィリピン群島に來航し、以後スペインの進出が始まった。1565年にはレガスピの艦隊がスペイン領メキシコからセブ島に上陸し、1571年以降、マニラを拠点に植民地支配を広げた。スペインは政教一致の支配体制を取り、住民にカトリック信仰を強制したが、南部イスラーム地域の住民(モロ族)及び山地住民はこれに抵抗し、スペインの進出を許さなかった。

1834年にマニラが対外貿易に開港されると、フィリピンの社会経済は大きな影響を受け、輸出用農産物生産と国内流通が発展し、新興有産階級が形成され、やがて植民地支配に対する批判が行われるようになった。1880年代にはスペイン留学中の(B)などフィリピン知識人等により、植民地支配の改革を求める言論活動が展開され、フィリピンの民族意識を目ざめさせた。1892年、(B)は帰国してフィリピン民族同盟を創設する。1896年には秘密結社カティプーナがマニラ近郊で武装蜂起を行い、フィリピン独立を求める革命運動を展開した。1899年には独立革命軍はフィリピン北部、中部の大部分を解放し、(C)を大統領とするフィリピン第一次共和国(マロロス共和国)を樹立した。だが、アメリカは米西戦争に勝利してフィリピン領有権を獲得すると、さっそくフィリピン征服に取りかかり、多数の犠牲者を出して1902年にこれを平定した。

アメリカはマニラに総督を置いてフィリピン植民地を統治したが、英語による公教育を進め、議会を設置して現地人エリートを植民地体制に包摂した。1915年にはアメリカはスールー王国を解体し、南部のイスラーム地域をも完全に支配するに至った。1934年にはアメリカ議会は10年後のフィリピン独立を定め、1935年11月にフィリピン(D)政府(コモンウェルス)が成立し、内政面を管轄した。

1941年12月8日、日本軍はフィリピンに侵攻し、42年5月には全土を占領した。

だが、日本軍政下の収奪と統制にフィリピン民衆は反発し、各地で抗日ゲリラが活動した。日本側はラウレルを大統領として対日協力のフィリピン共和国を樹立したが、状況は変わらなかった。1944年10月、米軍はレイテ島上陸に始まるフィリピン再占領作戦を展開し、翌年9月3日、現地日本軍は降伏した。

1946年7月、フィリピン共和国は独立したが、なお経済的・軍事的にアメリカの影響力は強く、1947年には軍事基地協定、1951年には米比相互防衛条約が締結された。政治面では、1965年に初当選した（ E ）大統領は再選以降、独裁傾向を強め、1972年には戒厳令を布告して憲法を停止し、反対派を弾圧するなどの強権統治を進めた。また、大統領一族と取り巻き達の腐敗と権力濫用は顕著になり、経済の不振も加わり、1986年には「ピープルズパワー」革命により（ E ）政権は崩壊し、民主政が回復した。



